

第3回「県内企業景気動向調査」結果 (平成17年5月調査)

【要旨】

- 今期(平成17年1-3月期)、県内企業の業況判断を示すDI値(「自社の業況DI値」)は前回調査時点より3.9ポイント悪化して7.1となるなど、弱含んでいる。一部では、全国的な景気の回復が言われ始めたが、本県との景気にいくぶんギャップが生じつつある。
- 業種別に見ると、これまで好調を持続してきた製造業で回復に一服感が見られたほか、卸・小売業でわずかに底入れの兆しが見られた。ただ、建設業とサービス業は引き続き低調であった。
- 地域別に見ると、これまで「好調な村山地域」と「低調なその他地域」とに分かれていたが、ここにきて村山南部の回復に一服感が出たほか、村山北部でも回復が鈍化しており、地域間の温度差は薄れつつある。このほか、庄内田川で低調ながらも底入れの兆しが見られた。
- 景気の先行き見通しは、自社の業況DI値が1.8ポイント改善して5.3となっており、低調ながらも横ばいで推移する見込み。ただ、個人消費に回復の兆しも見られるなど、これまで低調だった卸・小売業を中心に、徐々に景気回復への期待も高まっている。
- なお、アンケート結果の概要は次の通り。
オンライン：平成17年5月9日(月)～20日(金)、有効回答数454社(59.7%)
ヒアリング：平成17年5月23日(月)～6月9日(木)、28社

平成17年6月

株式会社荘銀総合研究所

目次

1 .	本県の景気動向.....	1
(1)	概況.....	1
(2)	業種別の業況.....	2
	建設業.....	2
	製造業.....	4
	卸・小売業.....	6
	サービス業.....	8
2 .	各地の景気動向.....	10
(1)	各地の概況.....	10
(2)	地域別・業種別の業況.....	11
	村山南部.....	11
	村山北部.....	12
	最上.....	13
	置賜.....	14
	庄内田川.....	15
	庄内飽海.....	16
3 .	景気の天気図.....	17
4 .	特別調査：夏季ボーナスの支給動向について.....	19

1. 本県の景気動向

(1) 概況

現状判断：弱含んでいる。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より3.9ポイント悪化して7.1となるなど、弱含んでいる。一部では、全国的な景気の回復が言われ始めたが、本県との景気にいくぶんギャップが生じつつある。

業種別では、これまで好調を持続してきた製造業で回復に一服感が見られたほか、卸・小売業でわずかに底離れの兆しが見られた。ただ、建設業とサービス業は引き続き低調であった。

地域別では、これまで「好調な村山地域」と「低調なその他地域」とに分かれていたが、ここにきて村山南部の回復に一服感が出たほか、村山北部でも回復が鈍化しており、地域間の温度差は薄れつつある。このほか、庄内田川で低調ながらも底入れの兆しが見られた。

先行き見通し：低調ながらも横ばいで推移する。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が1.8ポイント改善して5.3となっており、低調ながらも横ばいで推移する見込み。

業種別では、製造業で上向き見込みだが、来期への繰り越し工事が少ない建設業でさらなる悪化が見込まれている。ただ、今期から卸・小売業を中心に個人消費が回復しつつあり、卸・小売業や対個人向けサービス業などで本格的な回復への期待も高まっている。

地域別では、村山南部でマイナスに転じると見込まれているほか、概ね他の地域でも低調に推移する見込み。

表1 県内景気の現状判断と先行き見通し（各DI値の動向）

(前期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
		(前年同期比)				
平成16年11月	1.3	(0.5)	0.5	5.8	5.8	11.2
平成17年2月	3.2	(2.3)	4.1	17.3	1.4	17.0
平成17年5月	7.1	(0.8)	12.1	22.9	1.1	14.1
平成17年8月(見通し)	5.3	(-)	10.8	15.0	3.7	20.7

(2) 業種別の業況
建設業

現状判断：低迷している。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より0.4ポイント改善し27.0となるなど、依然として低迷している。

戸建てやマンションなどの住宅建築を中心に民間工事は堅調に推移しているものの、依然として公共工事の低迷が続いており、全般的な受注環境を改善するまでには至っていない。手持工事高DI値は前回より8.6ポイント悪化し、39.5であった。ただ、前年同期と比べ、大雪の影響による除雪作業の大幅な増加もあり、一部の業者では売上減少の緩衝材となった模様。

一方、引き続き鉄鋼および原油などの原材料価格が高値で推移しており、建設資材や重機等の燃料価格の高騰が利益幅を圧縮している。ただ、ここにきて原油価格は高値で安定してきており、原油価格の急騰によるリスクはいくぶん緩和されつつある。

このほか、人員・人手の過剰感や資金繰りについては若干和らいだものの、まだまだ低迷している。

先行き見通し：悪化が見込まれる。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が31.8となっており、業況のさらなる悪化が見込まれる。

特に、今期において十分な手持工事高が確保できなかったことから、来期への繰り越し工事もさほど見込めないこと、また、4月以降の公共工事の発注についても、需給ギャップを解消できるほどのボリュームを見込めないことなどが主な原因。手持工事高DI値は40.4、完成工事高DI値は38.4であり、いずれも悪化予想。

このほか、人員・人手DI値は12.5で2.0ポイント改善、資金繰りDI値は40.4で15.4ポイントの悪化予想となっている。

表2 建設業の現状判断と先行き見通し（各DI値の動向）

(前期比) (調査時点)	自社業況		完成 工事高	営業利益	手持 工事高	人員・人手	資金繰り
		(前年同期比)					
平成16年11月	13.5	(23.0)	12.1	29.7	14.8	2.7	24.3
平成17年2月	27.4	(27.4)	28.6	45.3	30.9	21.5	36.9
平成17年5月	27.0	(29.8)	29.8	41.4	39.5	14.5	25.0
平成17年8月(見通し)	31.8	(-)	38.4	45.2	40.4	12.5	40.4

業界の声

Q. 今期の業況について

- 公共工事の受注状況については、“ありえない”水準まで落ち込んでいる。また、前回は安い単価で積算した工事に関して、その後の原油価格の異常な値上がりにより悩まされたが、今期は見積もり段階で対応できた分業だった。(総合工事業、A社)
- 民間からの依頼も含め、除雪作業が予想以上に多く出た。大雪の影響によって工期の遅れが懸念されもしたが、終わってみれば全体的にプラス。雪に助けられた。(同、B社)
- 建築部門は雪に振り回されたというのが正直な感想。業況は悪い。工期が遅れるなどの“雪害”へのクレーム対応が大変だった。ただ、補修工事絡みの小さい工事はいくつか出た。(同、C社)
- ビルや店舗の補修を中心に一部駆け込み的な工事もあったが、今期の売上は前期比 20%。全体的には悪い。重油や軽油の値段も高値が続いており、引き続き利益を圧縮している。(同、D社)
- 完成工事高で見れば、前年同期比 37%、前期比微増。公共工事に関して、例年より工事発注のタイミングがずれたため 1~2 月の完工高が減少したことが影響した。(同、E社)

Q. 来期の見通しについて

- 公共工事に関しては、例年 4~6 月は出ない。3 月までにどれくらい受注を確保しているかで決まる。今のところ技術者を維持していくのでやっとな。(総合工事業、A社)
- 非常に厳しい。県や市町村からの発注がまったくない。6 月に入ったら出ると聞いているが、本当に出してくれるのか不安。民間工事についてはまずまずの状況(同、B社)
- あまりよくない。住宅建築に関しては中古住宅も含めれば明らかに供給過剰。ただ、潜在需要はあるので、新規需要の掘り起こしをうまくやるしかない。(同、C社)
- 見通しはまったくダメ。一部、国や公団発注の公共工事はあるが。県や市町村の発注はない。また、原油価格についてもユーザーベースでは下がるとは思えない。もうしばらく高値で推移すると見ている。(同、D社)
- 来期は良くない。4 月だけで見ると、売上の前年同期比 37%。公共工事、特に土木・舗装の受注状況が良くない。ただ、民間住宅の建築依頼などは増えており、今後も順調に増えると思っている。(同、E社)

製造業

現状判断：回復に一服感。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より20.9ポイント悪化して3.7となっており、これまでの業況回復に一服感が見られる。

全体的に売上が伸び悩む中で在庫に過剰感を抱えているなど、いくぶん調整期に入っていることもあり、売上高DI値は前回より26.2ポイント悪化の6.0、在庫状況DI値は7.0ポイント悪化の12.0であった。

また、人員や人手に過剰感も出始めており、わずかではあるが雇用環境の改善に水を差すことも懸念される。人員・人手DI値は前回より10.9ポイント悪化して3.8であった。

一方、ヒアリングによれば、乗用車や商用車も含めて輸送関連は持ち直している。特に、国内需要が増える3～4月に対応する形で生産も堅調だった。ただし、電機機械関連は、引き続き電子部品などを中心に調整期に入っており、不振であった。また、飲料・食料品関連は低調だったほか、それ以外の業態では概ね横ばいで推移している。

先行き見通し：上向く兆しが見られる。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が15.8ポイント改善して12.1となっており、再び上向く見込み。

調整期に入っている電機機械関連で底入れの兆しが徐々に現れてきていること、自動車関連も引き続き好調を維持すると思われることなどが主な原因。ただ、県内需要への依存度が高い飲料や食料品等に関してはやや盛り上がりを欠くなど、一部で低調に推移する見込み。

このほか、人員・人手DI値は5.3で1.5ポイント悪化、資金繰りDI値は18.0で12.7ポイントの悪化予想となっている。

表3 製造業の現状判断と先行き見通し（各DI値の動向）

(調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	(前期比)	(前年同期比)						
平成16年11月	12.9	(19.8)	8.6	2.6	39.7	3.4	8.6	3.4
平成17年2月	17.2	(17.2)	20.2	2.0	47.4	5.0	7.1	3.1
平成17年5月	3.7	(11.3)	6.0	15.0	43.6	12.0	3.8	5.3
平成17年8月(見通し)	12.1	(-)	3.0	4.5	36.1	26.3	5.3	18.0

業界の声

Q. 今期の業況について

- 売上は、前年同期比 3.4%増、前期比 23%増。この時期は4~5月の需要増に備えて例年生産が増える時期。季節的な要因も考慮すれば、まあまあといったところ。(輸送機械、A社)
- 今期は非常に良かった。売上は前年同期比 4.7%増、前期比 0.6%増。排ガス規制の強化を見込んだトラック需要の増加が主な原因。ただ、鋼材の仕入れ価格は依然として値上がりしているが、ここにきて値上がり幅が拡大している。(同、B社)
- 半導体に関しては、前年同期比でも前期比でも悪い。需要の落ち込みがひどく、価格も30%以上ダウンした。また、コストダウン要求も依然として厳しい。(電機機械、C社)
- 売上は5.3%増、経常利益は46.7%減の増収減益。全般的には、前々期から業績は非常に好調で前期の前半くらいまで続いた。しかし、前期後半から低迷して現在が“底”という認識でいる。(同、D社)
- 例年通りであれば2月に売上は落ち込むが、今年はさほど落ち込まなかった。パチンコ業界を中心に広告チラシがだいぶ引った。(印刷、E社)
- 出店効果で売上は伸びたが、消費のマインドは冷えている。(食料品、F社)

Q. 来期の見通しについて

- 4月時点では、売上の前月比マイナス。得意先メーカーの生産計画が減産計画となっているため。ただ、自動車業界自体は好調で、今年度の需要予測(国内販売)では前年度比プラス2%となっている。(輸送機械、A社)
- 非常に明るい見通しを持っている。排ガス規制の強化に伴う需要増に対応するため、増産計画としている。(同、B社)
- 半導体に関しては回復の兆しが見えてきた。現在、ラインは過負荷状態にあり、フル稼働状態。また、半導体以外の電子部品についても新製品の発表に併せて増産態勢に入る予定。(電機機械、C社)
- ゴールデンウィークを控えていたこともあり、5月まではだいぶ忙しかった。ただ、例年通りであればそれ以降に落ち込んで収益に影響を及ぼすが、それも季節変動の範囲内。(印刷、D社)
- 6月後半からお中元需要が見込めるので相当期待している。今のところ、商品によっては生産能力が追いつかないことも予想され、商品によっては値上げも検討している。(食料品、E社)

卸・小売業

現状判断：底離れの兆しが見られる。

業況は、自社の業況DI値(前期比)が前回より5.8ポイント改善して1.8となっており、底離れの兆しが見られる。

昨年4月に導入された消費税総額表示方式等の影響による消費の落ち込みもいくぶん緩和され、徐々に消費マインドが回復しつつある。売上高DI値は前期比1.9だったが、前年同期比で見ると2.8であった(「参考資料1」参照)。また、在庫の過剰感もいくぶん和らぎ、在庫状況DIは前回より5.7ポイント改善して6.3となった。ただ、仕入価格の値上がりの影響もあり、収益的には厳しさが残った模様。仕入価格DI値は34.5、営業利益DI値は15.4であり、いずれも前回より悪化した。

また、ヒアリングによれば、食料品は好調。衣料品、日用雑貨品は不振。家電は新生活者向け需要が盛り上がり欠けている。ガソリン等の燃料小売に関しては燃料価格の値上がり等の影響によって好調。

先行き見通し：一進一退で推移する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が4.5ポイント悪化して2.7となっており、一進一退で推移する見込み。

消費マインドに回復の兆しが見れつつあるも、本格的な回復につながるまでには今しばらく時間を要するという慎重な見方が多く、そのための一時的な下振れと思われる。ただ、小売業を中心に各地で大型チェーン店の出店も予定されているなど、引き続き競争環境も厳しさを増す見込み。

このほか、人員や人手の不足感は解消され、若干余剰感も出る。人員・人手DI値は3.7となっており、11.9ポイントの悪化予想。

表4 卸・小売業の現状判断と先行き見通し(各DI値の動向)

(調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	(前期比)	(前年同期比)						
平成16年11月	3.2	(5.4)	2.1	4.3	30.1	17.2	3.2	10.8
平成17年2月	4.0	(4.0)	4.0	6.7	25.3	12.0	1.3	10.6
平成17年5月	1.8	(8.2)	1.9	15.4	34.5	6.3	8.2	15.4
平成17年8月(見通し)	2.7	(-)	6.4	6.3	25.4	32.8	3.7	15.5

業界の声

Q. 今期の業況について

- 個人消費の回復は本物かどうか。前年比較では好調。新規出店分の寄与と既存ベースでも前年比プラス。(各種商品小売、A社)
- 3月期決算は、経常利益、営業利益とも黒字。消費マインドは回復している気もする。昨年は利用客数は増えたが客単価が低下。今年は客単価が回復したなのでその分売上が増えている。(同、B社)
- 2月期決算は2期連続の赤字。売上 5.6%、粗利益 7.8%。食料品はまあまあだったが、衣料品の不振が響いた。(同、C社)
- 2月期決算は売上は前年比 10%、営業赤字を計上。(同、D社)
- 業況はあまり良くない。県内の家電量販店が3店舗閉鎖になった影響が大きい。また、例年であれば、3月頃から新生活者向け需要が伸びるが今年はさほどでもなかった。(家電卸、E社)
- 3月期決算は、売上が前年度比 2%、経常利益が 150%。売上は伸びていないが、在庫管理の強化など経費削減効果が出てきた。(飲食料品卸、F社)
- 3月期の売上は前年比 32 億円増。税引後利益は前年並み。前年度下期から値上がりが続いたのが好調の原因。(燃料小売、G社)

Q. 来期の見通しについて

- 今の状況でいくと、上期は計画通りに推移する見込み。下期には新店舗の出店も計画している。(各種商品小売、A社)
- 4月、5月は単月で連続黒字。売上も予算を達成して今のところ好調。ただし、6月の結果が出てみないことにはここまでの回復基調が本物かどうか確信が持てない。他店の出店も相次ぎ、競争も厳しくなる。(同、B社)
- 個人消費は、本格的にはまだ回復していないという印象だが、3~5月の売上を見るとほんの少しは回復してきた感じがする。営業サイドの話では6~8月も目標をクリアする見込み。(同、C社)
- 4月、5月の売上は良かった。既存店の数字も悪くない。その先が勝負で、結果が出る頃には消費の回復感も見分けがついているだろう。(同、D社)
- 今のところ前年並み。新製品の導入効果もあって、堅調。ただ、量販店の閉鎖の影響があるので、前年比 85% 掛けくらいか。(家電卸、E社)
- 4~6月は前年比プラスになる見込み。売上は回復基調にあり、少しだが消費の回復感が出てきた感じ。(飲食料品卸、F社)
- 6月以降はガソリン価格が下がる見込みなので、業績は悪い。(燃料小売、G社)

サービス業

現状判断：低調ながらも横ばいで推移。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より1.3ポイント改善して1.0となっており、低調ながらも横ばいで推移している。

対個人向けサービス業も対事業所向けサービス業も、一般的に需要不足が続いており、客単価の下落が収益を悪化させている。売上高DI値は13.1、営業利益は22.4であった。

また、ヒアリングによれば、旅館やホテルでは一般的に客数の減少と客単価の下落が続いているが、業況はやや二極化しつつある。飲食店は概ね低迷している。ただ、不動産関連は季節的な要因から好調だった。一方、対事業所向けサービス業は、これまで好調を維持してきた貨物輸送で運賃率の低下と燃料費の高騰により、利益率が低下している。広告代理業は引き続き広告需要の低迷が続いており、低調。ソフトウェア開発は県内需要が乏しいものの、首都圏の需要に支えられ、概ね横ばいであった。

先行き見通し：弱含みつつも横ばいで推移する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が2.8ポイント悪化して3.8となっており、弱含みつつも横ばいで推移する見込み。

物流量自体が堅調であることや大型連休の影響によって観光関連需要の増加が見込めるといったプラス材料もあるが、いずれも例年並みで季節変動の範囲内にとどまる模様。

このほか、人員・人手DI値は6.6であり、雇用の不足感も若干残る見込み。また、資金繰りは10.3となっており、引き続き厳しさが残る見込みとなっている。

表5 サービス業の現状判断と先行き見通し（各DI値の動向）

(前期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
		(前年同期比)				
平成16年11月	3.1	(1.0)	3.1	7.2	11.2	11.2
平成17年2月	2.3	(5.7)	14.6	21.3	5.6	19.1
平成17年5月	1.0	(2.8)	13.1	22.4	5.6	13.1
平成17年8月(見通し)	3.8	(-)	5.6	7.4	6.6	10.3

業界の声

Q. 今期の業況について

- 宿泊部門は好調で、宿泊者数は前年比 6.6%増、売上は 2.7%増。3 月は特に宿泊部門が好調だった。レストランはほぼ横ばい。婚礼宴会が足を引っ張った。また、山形市内の都市型ホテルに極端な客室稼働率の格差が生じている。(宿泊業、A社)
- 客室稼働はまあまあだが、人数が増えない。旅館はどこも同じ傾向にあり、空き室にするよりはマシということで、引き続き各館が安売りに走っている。(同、B社)
- 売上は前年の 97.8%。貨物量は前年比若干のプラスだったが、運賃率が 2%ダウンした。経費面では燃料費がリッター当たり 7 円上がった。(運輸業、C社)
- 例年、この時期は後半から引っ越しが入るので繁忙期となるが、昨年と比較してみるとやや少なかった。収益的には原油高の影響で毎月 100 万円単位で利益が飛んだ。引き続き運賃単価は上がっていないので、負担は相当大きい。(同、D社)
- ソフトウェア産業は期末に依頼が集中する傾向があるので、前期と比べれば売上は増えた。ただ、前年同期比で見ると横ばい。(ソフトウェア開発業、E社)
- 全体的な売上は 15%減、全体的に広告意欲に欠けていて経費削減の方が主な課題になっている企業が多いという感じを抱いている。(広告代理業、F社)

Q. 来期の見通しについて

- 今年度は、経常利益ベースで 3 千万円の黒字を目指す計画。経費削減、外注の見直し、人件費の見直しなど。(宿泊業、A社)
- 今年は、愛知の万博、デスティネーションキャンペーンは会津、JRとJTBは中越地震の復興支援で新潟県の営業を強化など、山形県にとっては悪材料ばかりで、非常に厳しい。(同、B社)
- 4 月と 5 月は、ほぼ計画通り。ロジスティクス部門でも、新規顧客の減少は生じていない。(運輸業、C社)
- 物流量自体は順調。例年並みといったところ。ただ、これからの時期は農産物(さくらんぼなど)の出荷シーズンをむかえるので相当忙しくなる。(同、D社)
- 今のところ、売上は抑えられているが、例年通り。ただ、前期からの繰り越し作業が残っているので、作業的には減っていない。(ソフトウェア開発業、E社)
- 今後の見通しは非常に悪い。特に、紙媒体の広告はインターネットの普及で落ち込みも大きい。また、広告代理業は印刷業などと垣根を越えた競争状態にあり、引き続きパイの争奪も熾烈。(広告代理業、F社)

2. 各地の景気動向

(1) 各地の概況

庄内飽海：依然として低調に推移。

業況は、自社の業況DI値が 22.6 となっており、前回より 6.6 ポイント悪化するなど、低調に推移している。

業種別では、サービス業で悪化傾向にあるほか、その他も低迷している。

最上：悪化傾向にある。

業況は、自社の業況DI値が 10.5 となっており、2期連続でマイナスとなるなど、景気は悪化傾向にある。

業種別では、卸・小売業で底入れしつつあるが、建設業の低迷も目立った。

庄内田川：底入れの兆しが見られる。

業況は、自社の業況DI値が 5.2 となっており、前回より 11.5 ポイント改善するなど、底入れの兆しが見られる。

業種別では、製造業で底入れの兆しが見られたほか、サービス業も好調だった。

村山北部：回復は鈍化しつつある。

業況は、自社の業況DI値が 8.4 となっており、調査開始以来初のマイナスとなるなど、回復が鈍化しつつある。

業種別では、製造業で弱含み。卸・小売業で回復に減速感が見られた。

置賜：依然として低調に推移。

業況は、自社の業況DI値が 12.5 となっており、依然として低調に推移している。

業種別では、サービス業で底離れしつつあるも、製造業は弱含んでいる。

村山南部：改善に一服感が見られる。

業況は、自社の業況DI値が 6.6 となっており、前回より 7.6 ポイント悪化するなど、改善に一服感が見られる。

業種別では、製造業で一服感が見られたほか、卸・小売業でも回復が鈍化した。

表6 各地の景気動向（「自社の業況DI値」の動向）

(前期比) (調査時点)	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
平成16年11月	0.9	23.5	12.3	0.0	12.3	9.8
平成17年2月	14.2	3.6	2.9	12.7	16.7	16.0
平成17年5月	6.6	8.4	10.5	12.5	5.2	22.6
平成17年8月(見通し)	0.8	6.9	18.4	8.4	10.5	9.3

(2) 地域別・業種別の業況
村山南部

建設業：弱含んでいる。

業況は、自社の業況 DI 値が 5.0 となっており、前回より 3.3 ポイント改善した。営業利益と手持工事高もそれぞれ 8.3 ポイント改善したが、来期の業況にやや不安を残す展開となっており、弱含んでいる。

表7 建設業の動向（村山南部）

(前期比)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員人手	資金繰り
(調査時点)							
平成 17 年 2 月	8.3	58.4	0.0	33.3	33.3	0.0	16.6
平成 17 年 5 月	5.0	65.0	20.0	25.0	25.0	10.0	10.0
平成 17 年 8 月(見通し)	25.0	70.0	25.0	45.0	20.0	0.0	25.0

製造業：改善に一服感が見られる。

業況は、自社の業況 DI 値が 3.5 となっており、これまでの回復傾向にやや一服感がみられる。ただ、年明け以降は在庫等の調整局面が続いており、今後しばらくはこうした場状態が続くものと思われる。

表8 製造業の動向（村山南部）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	38.1	28.5	42.9	19.0	57.1	0.0	33.3	9.5
平成 17 年 5 月	3.5	17.2	0.0	6.9	31.1	6.9	0.0	6.9
平成 17 年 8 月(見通し)	6.9	20.7	6.9	17.2	37.9	27.6	17.2	17.3

卸・小売業：景気は上向いている。

業況は、自社の業況 DI 値が 18.7 となっており、前回より 11.0 ポイント改善するなど景気は上向いている。ただ、来期の見通しでは売上の減少や在庫や人員・人手の過剰感もあり、一進一退で推移すると思われる。

表9 卸・小売業の動向（村山南部）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	7.7	23.1	15.4	3.8	27.0	7.7	0.0	7.7
平成 17 年 5 月	18.7	6.2	12.5	3.1	50.0	3.2	3.1	0.0
平成 17 年 8 月(見通し)	6.2	12.5	6.3	9.4	40.6	31.2	9.4	21.8

サービス業：回復に鈍化の兆し。

業況は、自社の業況 DI 値が 5.0 となっており、前回より 7.2 ポイント悪化するなど、鈍化の兆しが見られる。来期の見通しについても、自社の業況 DI 値は 0.0 となっており、回復は鈍化しつつある。

表10 サービス業の動向（村山南部）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
(調査時点)						
平成 17 年 2 月	12.2	21.2	6.1	6.0	3.0	12.1
平成 17 年 5 月	5.0	12.5	12.5	15.0	2.5	0.0
平成 17 年 8 月(見通し)	0.0	15.0	10.0	12.5	2.5	5.0

村山北部

建設業：依然として低迷している。

業況は、自社の業況 DI 値が 28.6 となっており、前回より 2.2 ポイント改善した。営業利益や手持工事高などの各 DI 値に小幅ながら改善の動きも見られたが、今後も概ね低調に推移する見込み。

表 1 1 建設業の動向（村山北部）

(前期比)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員人手	資金繰り
(調査時点)							
平成 17 年 2 月	30.8	76.9	53.8	46.1	46.1	23.1	38.5
平成 17 年 5 月	28.6	57.1	28.6	42.9	42.9	14.3	42.9
平成 17 年 8 月(見通し)	0.0	50.0	35.7	35.8	28.6	7.1	28.6

製造業：回復は弱含みつつある。

業況は、自社の業況 DI 値が 3.3 となっており、回復は弱含みつつある。来期の見通しは、自社の業況 DI 値がプラスに転じる見込みだが、他の DI 値に目立った改善も見込めないことから、今後は一進一退で推移する見込み。

表 1 2 製造業の動向（村山北部）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	8.7	13.0	13.1	21.8	56.5	13.1	0.0	17.4
平成 17 年 5 月	3.3	3.3	6.7	20.0	70.0	6.7	10.0	6.7
平成 17 年 8 月(見通し)	16.7	6.7	6.7	3.3	46.7	23.4	3.3	20.0

卸・小売業：回復は減速しつつある。

業況は、自社の業況 DI 値が 0.0 となっており、前回より 22.2 ポイント悪化するなど、回復も減速しつつある。来期の見通しについても、自社の業況 DI 値は 6.3 となっており、回復も弱含み込み。

表 1 3 卸・小売業の動向（村山北部）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	22.2	0.0	55.6	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0
平成 17 年 5 月	0.0	37.5	6.3	18.7	12.5	12.5	12.5	6.3
平成 17 年 8 月(見通し)	6.3	31.3	12.5	6.3	12.5	50.0	12.5	18.8

サービス業：改善に一服感が見られる。

業況は、自社の業況 DI 値が 8.3 となっており、これまでの回復傾向にやや一服感がみられる。ただ、来期の見通しでは売上高や営業利益の減少が懸念されるなど、今後しばらくは一進一退で推移すると思われる。

表 1 4 サービス業の動向（村山北部）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
(調査時点)						
平成 17 年 2 月	20.0	40.0	20.0	30.0	10.0	20.0
平成 17 年 5 月	8.3	41.7	8.3	25.0	0.0	8.3
平成 17 年 8 月(見通し)	8.4	50.0	16.6	25.0	16.6	25.0

最上

建設業：悪化傾向にある。

業況は、自社の業況 DI 値が 29.4 となっており、前回より 16.1 ポイント悪化した。また、今期以降、手持工事高の悪化傾向が鮮明となっていることから、今後しばらくは低迷が続く見込み。

表 1 5 建設業の動向（最上）

(前期比)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員人手	資金繰り
(調査時点)							
平成 17 年 2 月	13.3	53.3	20.0	40.0	20.0	13.3	33.3
平成 17 年 5 月	29.4	64.7	5.9	23.5	35.3	17.6	23.5
平成 17 年 8 月(見通し)	52.9	70.6	47.0	47.1	47.0	35.3	47.0

製造業：改善に一服感が見られる。

業況は、自社の業況 DI 値が 46.4 ポイント悪化して 25.0 となっており、これまでの回復傾向にやや一服感がみられる。ただ、在庫等の調整局面が続いており、今後しばらくはこうした状態が続くものと思われる。

表 1 6 製造業の動向（最上）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	71.4	0.0	71.4	28.6	71.4	14.3	42.9	28.6
平成 17 年 5 月	25.0	12.5	25.0	25.0	50.0	0.0	12.5	12.5
平成 17 年 8 月(見通し)	12.5	25.0	0.0	12.5	62.5	37.5	12.5	12.5

卸・小売業：底入れしつつある。

業況は、自社の業況 DI 値が 0.0 となっており、前回より 28.6 ポイント改善するなど、底入れしつつある。来期の見通しも、売上高等の各 DI 値が概ね底堅く推移すると見込まれており、横ばいで推移する見込み。

表 1 7 卸・小売業の動向（最上）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	28.6	28.6	28.6	42.8	42.8	14.3	28.6	42.8
平成 17 年 5 月	0.0	14.3	28.6	0.0	42.9	14.3	28.6	28.6
平成 17 年 8 月(見通し)	0.0	14.3	14.3	0.0	42.9	42.8	0.0	0.0

サービス業：底入れの兆しが見られる。

業況は、自社の業況 DI 値が 16.6 となっており、低調ながらも 16.7 ポイント改善した。来期の見通しも、自社の業況 DI 値をはじめ、各 DI 値に概ね改善が見込まれているなど、底入れの兆しがうかがわれる。

表 1 8 サービス業の動向（最上）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
(調査時点)						
平成 17 年 2 月	33.3	50.0	16.6	16.6	0.0	33.3
平成 17 年 5 月	16.6	66.7	33.3	50.0	16.7	33.3
平成 17 年 8 月(見通し)	16.7	83.3	0.0	0.0	16.7	33.3

置賜

建設業：依然として低迷している。

業況は、自社の業況 DI 値が 37.5 となっており、前回より 9.6 ポイント改善したものの、依然として低迷している。来期の見通も、手持工事高をはじめ、各 DI 値は概ね低調となっており、今後も低迷が続く見込み。

表 19 建設業の動向（置賜）

(前期比)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員人手	資金繰り
(調査時点)							
平成 17 年 2 月	47.1	58.8	35.3	47.1	23.5	35.3	64.7
平成 17 年 5 月	37.5	68.8	37.5	50.0	37.5	31.3	43.8
平成 17 年 8 月(見通し)	43.7	75.0	50.0	62.5	56.2	25.0	56.3

製造業：回復は弱含みつつある。

業況は、自社の業況 DI 値が 16.7 となっており、回復は弱含みつつある。来期の見通しは、自社の業況 DI 値がプラスに転じる見込みだが、他の DI 値に目立った改善も見込めないことから、今後は一進一退で推移する見込み。

表 20 製造業の動向（置賜）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	18.7	50.0	12.5	6.3	25.0	12.5	31.2	18.7
平成 17 年 5 月	16.7	29.1	12.5	29.2	45.8	25.0	4.1	8.3
平成 17 年 8 月(見通し)	4.2	16.7	8.3	0.0	20.9	37.5	4.2	29.2

卸・小売業：一進一退で推移している。

業況は、自社の業況 DI 値が 5.0 となっており、前回より 16.1 ポイント改善した。また、売上高等の各 DI 値も概ね改善した。ただ、来期の見通しは、盛り上がりを欠く展開となっており、今後は一進一退で推移する見込み。

表 21 卸・小売業の動向（置賜）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成 17 年 2 月	11.1	22.2	11.1	22.2	22.2	33.3	0.0	11.1
平成 17 年 5 月	5.0	30.0	25.0	15.0	35.0	5.0	5.0	10.0
平成 17 年 8 月(見通し)	5.0	30.0	10.0	10.0	20.0	25.0	0.0	10.0

サービス業：底離れしつつある。

業況は、自社の業況 DI 値が 0.0 となっており、前回より 7.7 ポイント改善するなど、底離れしつつある。来期の見通しも、売上高等の各 DI 値が概ね底堅く推移すると見込まれており、横ばいで推移する見込み。

表 22 サービス業の動向（置賜）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
(調査時点)						
平成 17 年 2 月	7.7	30.8	7.7	23.1	30.8	7.7
平成 17 年 5 月	0.0	41.7	8.4	16.7	25.0	25.0
平成 17 年 8 月(見通し)	8.3	41.7	8.3	0.0	16.7	16.7

庄内田川

建設業：依然として低迷している。

業況は、自社の業況DI値が27.8となっており、前回より5.6ポイント改善したものの、依然として低迷している。来期の見通も、手持工事高をはじめ、各DI値は概ね低調となっており、今後も低迷が続く見込み。

表23 建設業の動向（庄内田川）

(前期比)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員人手	資金繰り
(調査時点)							
平成17年2月	33.4	50.0	41.6	58.4	25.0	25.0	58.4
平成17年5月	27.8	66.7	50.0	77.8	61.1	22.2	33.3
平成17年8月(見通し)	38.9	55.5	44.5	50.0	55.6	16.6	50.0

製造業：底入れの兆しが見られる。

業況は、自社の業況DI値が2.0ポイント改善して4.2となっており、底入れの兆しが見られる。来期の見通しも、自社の業況DI値をはじめ、各DI値に概ね改善が見込まれているなど、底入れする見込み。

表24 製造業の動向（庄内田川）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成17年2月	6.2	12.5	12.5	50.0	31.3	6.2	0.0	0.0
平成17年5月	4.2	12.5	16.7	25.0	25.0	4.1	12.5	8.4
平成17年8月(見通し)	12.5	4.2	16.6	4.1	41.7	16.7	8.3	4.2

卸・小売業：弱含んでいる。

業況は、自社の業況DI値が0.0となっており、引き続き横ばいで推移している。ただ、売上高や営業利益などの各DI値に目立った改善の動きも見られないことから、今後もやや弱含みで推移する見込み。

表25 卸・小売業の動向（庄内田川）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成17年2月	0.0	33.3	6.7	13.3	26.7	20.0	20.0	26.6
平成17年5月	0.0	35.0	25.0	30.0	25.0	20.0	0.0	45.0
平成17年8月(見通し)	10.0	30.0	15.0	0.0	10.0	35.0	0.0	25.0

サービス業：一進一退で推移している。

業況は、自社の業況DI値が14.3となっており、35.8ポイント改善した。ただ、来期の見通しは売上高や営業利益などに盛り上がりや欠く展開となっており、今後は一進一退で推移する見込み。

表26 サービス業の動向（庄内田川）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
(調査時点)						
平成17年2月	21.5	35.8	21.4	21.4	7.2	28.6
平成17年5月	14.3	14.3	0.0	28.6	7.1	21.4
平成17年8月(見通し)	14.3	21.4	21.5	35.8	7.1	21.4

庄内飽海

建設業：依然として低迷している。

業況は、自社の業況DI値が10.2ポイント悪化して36.9となるなど、依然として低迷している。営業利益や手持工事高などの各DI値に小幅ながら改善の動きも見られたが、今後も概ね低調に推移する見込み。

表27 建設業の動向（庄内飽海）

(前期比)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員人手	資金繰り
(調査時点)							
平成17年2月	26.7	33.3	20.0	46.6	40.0	26.6	6.6
平成17年5月	36.9	47.4	47.3	31.6	36.9	5.3	5.3
平成17年8月(見通し)	26.3	42.1	31.6	31.6	36.9	5.2	36.8

製造業：弱含んでいる。

業況は、自社の業況DI値が11.1ポイント悪化して11.1となるなど、弱含んでいる。来期の見通しは、自社の業況DI値がプラスに転じる見込みだが、在庫の調整もあり、今後は一進一退で推移する見込み。

表28 製造業の動向（庄内飽海）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成17年2月	0.0	6.3	18.7	0.0	50.0	12.5	12.5	0.0
平成17年5月	11.1	16.7	5.6	27.8	38.8	27.8	5.6	11.1
平成17年8月(見通し)	22.2	11.1	11.1	0.0	16.6	22.2	16.7	22.2

卸・小売業：依然として低迷している。

業況は、自社の業況DI値が33.3となっており、低調ながらも横ばいで推移している。来期の見通しも、営業利益や在庫状況などの各DI値に目立った改善の動きも見られないことから、今後も低調に推移する見込み。

表29 卸・小売業の動向（庄内飽海）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
(調査時点)								
平成17年2月	33.3	58.3	25.0	16.7	8.4	33.4	0.0	8.3
平成17年5月	33.3	26.6	46.7	26.7	33.3	13.3	20.0	20.0
平成17年8月(見通し)	6.7	13.4	6.6	6.6	26.7	20.0	6.7	0.0

サービス業：悪化傾向にある。

業況は、自社の業況DI値が13.1となっており、前回より5.4ポイント悪化した。また、来期以降も売上高や営業利益の各DI値に目立った改善も見られないことから、今後しばらくは低迷が続く見込み。

表30 サービス業の動向（庄内飽海）

(前期比)	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
(調査時点)						
平成17年2月	7.7	7.7	15.4	23.1	0.0	15.4
平成17年5月	13.1	39.1	30.5	26.1	8.7	21.7
平成17年8月(見通し)	21.7	21.8	26.1	21.7	17.4	4.3

3. 景気天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値（前期比、来期の見通し）を5段階に分けて図解したもの。「天気図の凡例」をご参照のこと。

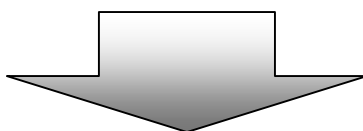
（天気図の凡例）

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI > 30	30 > DI > 10	10 > DI > 10	10 > DI > 30	30 > DI

表31 天気の概況（前期比）

前回調査（平成17年2月）

	山形県	村山南部	村山北部	最上	上置	賜	庄内田川	庄内飽海
全業種								
建設業								
製造業								
卸・小売業								
サービス業								



今回調査（平成17年5月）

	山形県	村山南部	村山北部	最上	上置	賜	庄内田川	庄内飽海
全業種								
建設業								
製造業								
卸・小売業								
サービス業								

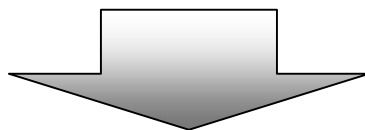


表3 2 天気予報（来期の見通し）

今回調査（平成 17 年 5 月）

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

4. 特別調査：夏季ボーナスの支給動向について

夏季ボーナス支給の動向について、「増やす」と回答した企業の割合は、前年夏季比でみて7.7%となっており、「減らす」と回答した企業の割合30.2%を大きく下回った。また、前年冬季比でみても「増やす」と回答した企業の割合は6.6%にとどまり、「減らす」と回答した企業の割合33.5%を下回った。

業種別にみると、相対的に「増やす」と回答した企業の割合が多い業種は製造業と卸・小売業であった。製造業で「増やす」と回答した企業の割合は、前年夏季比10.5%、前年冬季比6.8%であったほか、卸・小売業で「増やす」と回答した企業の割合は、前年夏季比10.0%、前年冬季比10.0%であった。

表33 夏季ボーナス支給動向

(%)

	前年夏季比			前年冬季比		
	増やす	さほど増やさない	減らす	増やす	さほど増やさない	減らす
全業種	7.7	62.1	30.2	6.6	59.9	33.5
建設業	1.9	57.7	40.4	3.8	50.0	46.2
製造業	10.5	62.4	27.1	6.8	66.9	26.3
卸・小売業	10.0	63.6	26.4	10.0	60.9	29.1
サービス業	7.5	64.5	28.0	5.6	59.8	34.6